



Title	韓国国立中央図書館蔵『鷹鵠方 全』（古古7-30-44）全文翻刻
Author(s)	二本松, 泰子
Citation	日本語・日本文化. 2013, 39, p. 21-51
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/50768
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

韓国国立中央図書館蔵『鷹鵠方全』（古古7-30-44）全文翻刻

二本松 泰子

一 はじめに

朝鮮で制作された鷹書である『鷹鵠方』は、高麗時代と李王朝時代にかけて複数の異本が制作され、日本にも多くの諸本が伝来したことが知られている。そのような『鷹鵠方』に関する先学の研究は、『放鷹』『朝鮮放鷹史』の第二編「朝鮮の文獻に現はれたる鷹の名稱」^{〔附、引用文獻〕}・田川孝三氏『李朝貢納制の研究』第一章「附・安平大君李瑔著鷹鵠方について」^{〔2〕}、村戸弥生氏「朝鮮時代放鷹史・鷹書研究アプローチのための予備ノート」^{〔3〕}、拙稿「『鷹鵠方』享受の一斑―韓国国立中央図書館蔵『鷹鵠方全』（古古7-30-44）の奥書をめぐって」^{〔1〕}などがある。

このうち田川氏論文によると、『鷹鵠方』の異本の種類は以下のように分類される。

- ① 李兆年編とされる『高麗古本鷹鵠方』（14世紀成立）。
- ② 李瑔編とされる『古本鷹鵠方』（15世紀成立）。
- ③ 李爛編とされる『新增鷹鵠方』（16世紀成立）。

『放鷹』と田川氏論文によると、右掲の①『高麗古本鷹鵠方』は林羅山と朝鮮通信使である金世漣との問答を記載

した『海槎録』や李圭景（李氏朝鮮第二十四代国王憲宗時代、在位期間一八三四年～一八四九年）編『五洲衍文長箋散稿』に「星山李兆年」著の『鷹鵠方』のあることが指摘されている。しかし、現存する伝本には、書中には李王朝時代にまで下るとおぼしき諺文が見えることから、高麗時代の李兆年の著書そのものかどうかは疑わしいとする。田川氏はまた、右掲三種の『鷹鵠方』の本文を比較して③『新增鷹鵠方』は②の『古本鷹鵠方』を「増補」したものと判じている。

ところで、右掲①③の『鷹鵠方』のうち、日本に伝来したとされているのは②『古本鷹鵠方』と③『新增鷹鵠方』である。そのうち、より多くの伝本が流布したのは③『新增鷹鵠方』で、件の林羅山も訓点や送り仮名を付したテキストを所持していた（国立公文書館内閣文庫蔵『新增鷹鵠方』（函号三〇六―三〇七））。同書は膨大な数の伝本が全国的に展開し、国字解などの注釈テキストも多数制作された。一方の②『古本鷹鵠方』は、③『新增鷹鵠方』が原拠としたテキストとされるにも関わらず、現存が確認できるのは以下の三本の和書のみである。ちなみに、朝鮮書の『古本鷹鵠方』は管見において確認できなかった。

- ・ 韓国国立中央図書館蔵『鷹鵠方全』（古古 7-30-44）
- ・ 宮内庁書陵部蔵『古本鷹鵠方全』（函号 163-1085）
- ・ 国立公文書館内閣文庫蔵『古本鷹鵠方』（函号 306-312）

このうち先の田川孝三氏論文が紹介している『古本鷹鵠方』の伝本は、宮内庁書陵部と内閣文庫に所蔵されている二本のみで、韓国国立中央図書館蔵『鷹鵠方全』については全く触れていない。あるいはその存在を知らなかったのかもしれない。しかしながら、韓国国立中央図書館本の奥書には他の二本と比較して書写（転写）に関する情報がいずれもより詳しく記載されている。すでに稿者は、その記載情報を検討して『古本鷹鵠方』の享受の一斑を明らかにした。⁶

すなわち、同書は我が国において江戸時代前期（承応年間）～後期（天保年間）に「鷹匠」もしくはそれと所縁深い人物たちに限定して伝来されたものらしく、近世期の鷹匠たちが独自のコミュニティを有していたことを窺わせしめることを検証したのである。このように同伝本には、当時の鷹匠たちによる鷹書を介した放鷹文化の伝播の在り方を示唆する情報や、我が国における朝鮮放鷹文化受容の実態を明らかにする様々な手掛かりが記載されている。

そこで本稿では、現存する『古本鷹鵠方』の伝本の中から、韓国国立中央図書館蔵本の全文を掲出する。このような我が国に伝来した朝鮮の鷹書について、その奥書に見える識語を含む全容を紹介することによって、いずれ日韓放鷹文化史を明らかにする手だてとなることを期するものである。

二 『古本鷹鵠方』の諸本

前節で紹介した『古本鷹鵠方』の伝本は、写し間違いとおぼしい数か所の異同を除き、三本ともほぼ同文となっている。ただし、各丁における行数や行ごとの字配りについては宮内庁書陵部蔵本と国立公文書館内閣文庫蔵本は一致しているが、韓国国立中央図書館蔵本は異なった体裁となっている。

一方、頭注については、宮内庁書陵部蔵本と韓国国立中央図書館蔵本がきわめて近い文言を記載しているが、内閣文庫本は異同を見せる。そもそも宮内庁書陵部蔵本と韓国国立中央図書館蔵本には合計20項目以上の頭注が記載されているのに対して、国立公文書館内閣文庫本の頭注は2項目しか記載されていない。

各伝本の書誌については以下のとおり。

○韓国国立中央図書館蔵『鷹鵠方 全』

所 蔵 韓国国立中央図書館。 古 7-30-44。

巻 数 一卷。

外 題 表紙左肩に「鷹鶴方全」と記す貼題簽。

丁 数 一七丁。

行 数 半葉一〇行無罫。訓点付き漢文。

藏書印等 表紙見返部分に楕円形の受け入れ印「朝鮮總督府図書館、圖書登録番号」（楕円の中に「昭和12. 4. 15」

「古 13323」と記載）他2つの押印。一丁表に「雜司谷片山賢」他2つの藏書印。

奥書等

一六丁表に「右古本鷹鶴方雖多不審依无類本／不能校合只任本書訖 通亮」。一六丁裏に「彰考館御本

奥書／右一者以二山一^{ハナ}本藤一右一衛一門所持本一令二書寫／校一合一畢^ハ 承應三^甲午年六月六日／古本鷹

鶴方以二水戸彰考館御本書寫／之一天保四年五月廿六日／史館待命 平小山田與清」。一七丁表に「右此

一帖者以一平與清小山田將曹自筆／本一於東武邸舍手自下^{ミツカラ}翰^{カン}書二寫之一畢／天一保四年歲次癸巳^{キシニ}仲秋

下^{ミツカラ}翰日／正木治部越智宿禰通亮（花押）。一七丁裏に「右古本鷹鶴方者以正木通亮手書本膳／寫畢天保四

癸巳之秋九月廿八日起筆／十月五日終卷馴鷹繫務之間連夜務下／採毫成功畢通亮者近江彦根之家士也／善

國學側耽耽探鷹書頃日奉主命来江戸／館而勤仕余有邂逅者而交情密也固得／借此書寫焉／雜司谷鷹人 片山

勇八賢（花押）。

○宮内庁書陵部蔵『古本鷹鶴方全』

所 蔵 宮内庁書陵部。函号一六三一〇八五。

卷 数 一卷。

外 題 表紙左肩に「古本鷹鶴方全」と記す貼題簽。

内 題 表の遊紙左肩に「古本鷹鶴方 完」の墨書。

寸、法 縦23.5糎×横16.5糎

丁 数 二七丁。表裏に遊紙各一丁。

行 数 半葉七行無野。訓点付き漢文。

蔵書印等 一丁表に縦4糎×横4糎「宮内省圖書」の蔵書印。裏の遊紙に縦4.5糎×横2糎「昭和3年12月 伯爵松平

直亮寄贈」の受け入れ印。

奥書等

二七丁表に「彰考館御本奥書／右者以山本藤右衛門所持本／令書寫校合畢／承應三^甲年／六月六日／古本鷹鶴方以水戸影考館御本／書寫之天保四年五月廿六日／史館待命／平小山田與清」。

○国立公文書館内閣文庫蔵『古本鷹鶴方』

所 蔵 国立公文書館。函号三〇六一三一二。

卷 数 一卷。

外 題 表紙左肩にウチツケ書きで「古本鷹鶴方」。

内 題 表遊紙左肩に「古本鷹鶴方」の墨書。

寸 法 縦23糎×横16糎

丁 数 二七丁。表裏に遊紙各一丁。

行 数 半葉七行無野。訓点付き漢文。

蔵書印等 表紙右下に縦7糎×横2糎「新宮城書蔵」の蔵書印。一丁表に縦3.8糎×横3.8糎「日本政府圖書」、縦3.8糎

×横3.8糎「圖書之文庫」、3.8糎×3.8糎「内閣文庫」、縦7糎×横2糎「新宮城書蔵」の蔵書印、「明治十六年購求」の受け入れ印。二六丁裏に縦3.8糎×横3.8糎「圖書之文庫」の蔵書印。

二七丁表に「彰考館御本奥書／右者以山本藤右衛門所持本／令書寫校合畢／承應三^甲年／六月六日／古

奥書等

本鷹鶴方以水戸影考館御本／書寫之天保四年五月廿六日／史館待命／平小山田與清」。

注

- (1) 『放鷹』（宮内省式部職編、一九三一年十二月、吉川弘文館、二〇一〇年六月新装復刻）。
- (2) 田川孝三氏『李朝貢納制の研究』（東洋文庫刊、一九六四年、初出「李朝の鷹房と鷹子進上」『朝鮮学報』一四、一九五九年一〇月）。
- (3) 鷹書研究会第一一回例会口頭発表、二〇一〇年七月一〇日。
- (4) 二本松泰子『鷹鶴方』享受の一斑——韓国国立中央図書館蔵『鷹鶴方全』（古古 7-30-44）の奥書をめぐって——『鷹書類の調査と研究』所収、平成20年～平成23年度、科学研究費補助金（基盤研究C）研究課題番号 20520189）
- (5) 注（4）に同じ。
- (6) 注（4）に同じ。

【凡例】

- 一 翻刻は韓国国立中央図書館蔵『鷹鶴方全』（古古 7-30-44）によった。
- 一 翻刻に関しては、できるかぎり原文に忠実になるようにつとめ、改行は原本に従った。
- 一 改丁は「をもつて示し、（二オ）のように丁数ならびに表裏を示した。
- 一 字体は出来るだけ底本の表記を重んじるように心がけたが、異体字など、一部通行の字体に改めたところもある。
- 一 花押は（花押）とし、その形態は示さなかった。
- 一 頭注については、本文の該当部分に算数字を付し、それに対応する注の文言を一括して本稿の末尾に記載した。

【本文】

鷹鶴方序

張一九一齡云鷹也者名揚二於尚父一義見二於詩一

鶴也者跡隱二於古人一史闕二其載一豈昔之多

識物亦有二遺一以レ此觀レ之鶴之名始見レ唐矣

夫鳥之鸞者其類有レ二曰鷹曰鶴其黃一鷹

白一鷹角一鷹鶴一子青一鶴乃鷹之類也其鴉一鶴

免一鶴燕一鶴海一青龍一奪黃一鶴乃鶴之數也凡

此鷹一鶴非二特一玩レ形所以資二之鳥數一也攀雲

以二擊鳥之力一以爲レ娛故自レ古及レ今王一公大

人莫レ不レ愛レ之必窮一崖谿一壑之險費二羅網之一一才

巧一然一後可レ得及二其調養一法亦有レ具畫不レ離

レ手夜當二保一護一其勤如レ此猶且失二其節一常而

疾病易レ生或至レ掃群所謂鷹者尤一甚焉古

今之人曾無二攻一治之術一其得レ之也難其養

レ之也勤而及二其生一病也拱レ手待レ斃而不能

救也余竊恨之觀其飲啄之勢一察其肥瘦
 之候以尋生病之根爰將本草一因其藥性
 隨證治之無不立效遂著爲方大抵調養
 鷹鶴之術皆出於戲玩雖君子之不屑然
 或留意於鷹鶴者觀此有三以得二其備急云一ウ
 正統甲子獵月暇日書于匪懈堂之梅竹
 軒

教鷹鶴一名

○黃鷹（教之ニ）白鷹投伊毘。教之雉鳴。甫加乙者。白木鷹。教之雉鷹
 鴨。○角鷹召鶴教之雉兔。○鶴子結外。教之鶉鵲。○青鸛非耶
 下。教之鶉雀。○鴉鵲（鶉雀）。教之鵲鵲（鵲鵲）。○免鶉（鶉）蓋加耳。教之雉兔。
 ○免燕々鶉者于非耶下。無教而有名。○籠（籠）奪都弄太。教之鶉與
 鶉。○黃鸛具只乃。亦無教而有名。○海青松鶉。無所不教而至下於
 中折鶉離一者上。

昔楚文王好獵有下人獻奇鳥一者上是謂海青二二オ

爲^ス獵^ヲ於^ニ夢澤^ニ毛群羽族^ニ爭^ニ噬^シ競^ニ搏^ニ此^ノ鳥^ミ瞪^ミニ

目^メ雲^ニ際^ニ一^ニ無^シ捕^ヲ噬^シ之^シ志^シ王^ニ謂^テ一^ニ者^ニ曰^ク汝^ヲ將^チ欺^シスル

余^レ耶^カ答^ハ曰^ク若^ハ效^ニ於^ニ雉^ニ一^ニ兔^ニ臣^ニ豈^ニ敢^ニ獻^ニ俄^ニ而^ニ雲^ニ一^ニ

際^ニ有^レ物^カ鮮^ニ白^シ不^レ辨^ニ其^ノ形^ニ一^ニ此^ノ鳥^カ便^ニ聳^ニ翅^ニ而^ニ昇^ル

失^ニ其^ノ所^ヲ處^ニ一^ニ須^ニ曳^ニ毛^ニ墮^ニ若^レ雪^ニ血^ニ下^ル如^レ雨^ニ有^ニ大^ニ

鳥^一墜^ニ地^ニ度^ニ其^ノ兩^ノ翅^ニ一^ニ其^ノ大^ニ數^ニ一^ニ里^ニ衆^ニ莫^ニ能^ニ識^ニ一^ニ有^ニ

博物^ハ君子^ノ曰^ク此^レ大^ニ鵬^ニ雛^ニ也^ニ由^テ此^ニ觀^レ之^ハ無^レ所^ニ

不^レ教^ニ亦^ハ有^レ拋^ニ也^ニ籠^ニ奪^ニ教^ニ三^ニ之^ニ鵠^ニ與^ニ鵠^ニ一^ニ黃^ニ鸚^ニ

亦^タ無^レ教^ニ而^ハ有^レ名^ニ凡^ニ鷹^ニ一^ニ鵠^ニ所^ニ教^ニ大^ニ率^ニ若^レ此^ノ耳^ニ

不^レ須^ニ以^テ名^ニ定^ム一^ニ也^ニ且^ニ教^ニ之^ニ術^ニ備^ニ於^ニ時^ニ人^ノ所^ニ爲^ニ一^ニ二^ニウ

傳^ニ習^ニ已^ニ久^ニ不^ニ必^ニ更^ニ立^ニ他^ニ法^ニ一^ニ

用^ル藥^ヲ法^ヲ

夫^ハ鷹^ハ鵠^ハ本^ニ有^ニ二^ニ凌^ニ霄^ニ之^ニ氣^ニ一^ニ而^ニ見^ル屈^ニ於^ニ人^ニ一^ニ飢^ル則^ル

隨^ニ人^ニ飽^ニ則^ル揚^ニ去^ニ故^ニ其^ノ生^ニ一^ニ病^ニ也^ニ率^ニ皆^ニ傷^ニ心^ニ迫^ル

情^ハ怯^ニ勞^ニ内^ニ熱^ニ調^ニ保^ニ有^レ違^ニ失^ニ其^ノ本^ニ性^ニ一^ニ耳^ニ作^レ食^ニ

當^ニ一^ニ細^ニ切^ニ一^ニ而^ニ不^レ銚^ニ可^ニ也^ニ鷹^ニ鵠^ニ有^ニ二^ニ強^ニ子^ニ一^ニ用^ニ二^ニ草^ニ紐^ニ

湯^{（二）}一令^レ浴焉又以^テ二梨^リ薤^ロ根^{（三）} 栢^{（四）}部^{（五）}根^{（六）} 二味^{（七）} 爲^{（八）}末^{（九）}

加^{（一〇）}二輕^{（一一）}粉^{（一二）}黃^{（一三）}連^{（一四）} 一細^{（一五）} 研^{（一六）}肉^{（一七）} 一裹^{（一八）} 飼^{（一九）}之^{（二〇）} 絶^{（二一）} 一妙^{（二二）} 亦^{（二三）}用^{（二四）}二水^{（二五）}

銀^{（二六）} 一散^{（二七）} 一 ○鷹^{（二八）}鶴^{（二九）} 尿^{（三〇）}有^{（三一）} 二長^{（三二）} 一虫^{（三三）} 一以^{（三四）}二狼^{（三五）}牙^{（三六）}草^{（三七）} 一煎^{（三八）} 一水^{（三九）}

灌^{（四〇）} 一 下^{（四一）} 或^{（四二）} 細^{（四三）} 一 末^{（四四）} 和^{（四五）} 一 食^{（四六）} 一 ○鷹^{（四七）} 一 鶴^{（四八）} 有^{（四九）} 二傷^{（五〇）} 一 毀^{（五一）} 處^{（五二）} 一 用^{（五三）} 二 三^{（五四）} 才^{（五五）}

輕^{（五六）}粉^{（五七）}松^{（五八）}脂^{（五九）} 一 塗^{（六〇）} 之^{（六一）} 待^{（六二）} 一 成^{（六三）} 一 痂^{（六四）} 去^{（六五）} 一 痂^{（六六）} 復^{（六七）} 用^{（六八）} 二童^{（六九）}便^{（七〇）} 小^{（七一）}兒^{（七二）}

尿^{（七三）}也^{（七四）}塗^{（七五）} 之^{（七六）} 令^{（七七）} 不^{（七八）} 一 成^{（七九）} 一 痂^{（八〇）} 如^{（八一）} 或^{（八二）} 足^{（八三）} 一 脚^{（八四）}浮^{（八五）}腫^{（八六）} 用^{（八七）} 二火^{（八八）} 一 鐵^{（八九）}

針^{（九〇）} 之^{（九一）} 且^{（九二）} 納^{（九三）} 二艾^{（九四）} 氣^{（九五）} 一 ○鷹^{（九六）}鶴^{（九七）} 若^{（九八）} 有^{（九九）} 內^{（一〇〇）} 冷^{（一〇一）} 外^{（一〇二）} 熱^{（一〇三）}

所^{（一〇四）} 尿^{（一〇五）} 成^{（一〇六）} 一 塊^{（一〇七）} 白^{（一〇八）} 礬^{（一〇九）} 二青^{（一一〇）} 綠^{（一一一）} 一 者^{（一二二）} 用^{（一二三）} 二甘^{（一二四）} 草^{（一二五）} 湯^{（一二六）} 一 和^{（一二七）} 一 食^{（一二八）} 雖^{（一二九）}

無^{（一三〇）} 二甘^{（一三一）} 草^{（一三二）} 湯^{（一三三）} 一 用^{（一三四）} 二溫^{（一三五）} 水^{（一三六）} 一 無^{（一三七）} 一 妨^{（一三八）} 一 ○鷹^{（一三九）}鶴^{（一四〇）} 如^{（一四一）} 有^{（一四二）} 一 失^{（一四三）} 一

其^{（一四四）} 節^{（一四五）} 一 常^{（一四六）} 飲^{（一四七）} 食^{（一四八）} 不^{（一四九）} 一 調^{（一五〇）} 或^{（一五一）} 吐^{（一五二）} 一 食^{（一五三）} 或^{（一五四）} 遲^{（一五五）} 一 下^{（一五六）} 或^{（一五七）} 所^{（一五八）} 尿^{（一五九）}

溷^{（一六〇）} 濁^{（一六一）} 或^{（一六二）} 身^{（一六三）} 端^{（一六四）} 激^{（一六五）} 熱^{（一六六）} 促^{（一六七）} 息^{（一六八）} 漲^{（一六九）} 氣^{（一七〇）} 困^{（一七一）} 倦^{（一七二）} 多^{（一七三）} 睡^{（一七四）} 目^{（一七五）}

睛^{（一七六）} 不^{（一七七）} 一 厲^{（一七八）} 一 羽^{（一七九）} 毛^{（一八〇）} 不^{（一八一）} 一 快^{（一八二）} 一 凡^{（一八三）} 百^{（一八四）} 病^{（一八五）} 證^{（一八六）} 皆^{（一八七）} 以^{（一八八）} 二龍^{（一八九）} 腦^{（一九〇）} 圓^{（一九一）}

黃^{（一九二）} 連^{（一九三）} 散^{（一九四）} 煮^{（一九五）} 肝^{（一九六）} 圓^{（一九七）} 一 治^{（一九八）} 之^{（一九九）} 龍^{（二〇〇）} 腦^{（二〇一）} 圓^{（二〇二）} 爲^{（二〇三）} 妙^{（二〇四）} 一 ○鷹^{（二〇五）}

鶴^{（二〇六）} 若^{（二〇七）} 有^{（二〇八）} 促^{（二〇九）} 息^{（二一〇）} 漲^{（二一一）} 氣^{（二一二）} 鼻^{（二一三）} 塞^{（二一四）} 而^{（二一五）} 目^{（二一六）} 有^{（二一七）} 一 淚^{（二一八）} 者^{（二一九）} 一 以^{（二二〇）} 二朱^{（二二一）} 一 三^{（二二二）} 烏^{（二二三）}

砂^{（二二四）} 散^{（二二五）} 一 吹^{（二二六）} 二 一 納^{（二二七）} 鼻^{（二二八）} 一 中^{（二二九）} 一 亦^{（二三〇）} 用^{（二三一）} 二龍^{（二三二）} 腦^{（二三三）} 圓^{（二三四）} 一 此^{（二三五）} 葉^{（二三六）} 尤^{（二三七）} 宜^{（二三八）} 一 於^{（二三九）}

鶴^{（二四〇）} 一 若^{（二四一）} 無^{（二四二）} 二 朱^{（二四三）} 砂^{（二四四）} 散^{（二四五）} 一 以^{（二四六）} 二自^{（二四七）} 角^{（二四八）} 湯^{（二四九）} 一 代^{（二五〇）} 之^{（二五一）} 一 ○鷹^{（二五二）}鶴^{（二五三）}

或^{モレ}為^ハ物^{モノ}所^ノ觸^フ目^メ睛^{セイ}迷^{メイ}眩^{ケン}而^{シテ}勢^{セイ}急^{キウ}者^{ナル}用^ニ當^ト

歸^キ散^{サン}若^シ不^レ得^ズ當^ト歸^キ散^{サン}人^ニ尿^シ澀^{セツ}口^コ爲^ニ妙^{ミョウ}○鷹^ト

鶴^ツ凡^ソ有^ル不^レ安^ノ之^ノ證^シ當^ニ忌^ム鴨^ト與^ニ白^{ハク}雞^キ黃^{ワウ}狗^ク肉^{ニク}

凡^ソ用^ル藥^{ヤク}多^ク少^シ宣^フ隨^フ鷹^ノ之^ノ大^ニ小^ニ

劑藥法

●龍^{リウ}腦^{ノウ}圓^{エン}龍^{リウ}腦^{ノウ}半^ハ錢^{セン}研^{ケン}大^{ダイ}黃^{ワウ}五^ゴ錢^{セン}人^{ジン}參^{シン}三^{サン}錢^{セン}右^ウ三^{サン}味^ミ內^{ナイ}除^ズ龍^{リウ}腦^{ノウ}外^{ガイ}合^{ゲツ}

為^ス二^ニ細^{サイ}末^{マツ}一^ト入^テ龍^{リウ}腦^{ノウ}令^ヘ均^ユ滴^{テツ}水^{スイ}作^ス丸^ワ如^ク二^ニ赤^{アカ}一^ト小^コ豆^{ジュ}大^{ダイ}以^テ金^{キン}箔^{ハク}為^ス衣^イ每^ヘ服^フ二^ニ丸^ワ

●朱^{シュ}砂^サ散^{サン}朱^{シュ}砂^サ雄^{ユウ}黃^{ワウ}各^{カク}一^ト錢^{セン}研^{ケン}麝^{ニョ}香^{カウ}半^ハ錢^{セン}研^{ケン}三^{サン}棱^{リョウ}二^ニ錢^{セン}雞^キ爪^{カウ}者^ニ山^{サン}茨^ツ菰^モ千^{セン}金^{キン}四^シ才^{サイ}

子^シ大^{ダイ}戟^{キョク}各^{カク}一^ト錢^{セン}半^ハ右^ウ七^{シチ}味^ミ內^{ナイ}除^ズ朱^{シュ}砂^サ雄^{ユウ}黃^{ワウ}麝^{ニョ}香^{カウ}別^ニ研^{ケン}外^{ガイ}合^{ゲツ}為^ス二^ニ細^{サイ}末^{マツ}一^ト入^テ二^ニ研^{ケン}藥^{ヤク}一^ト

令^ヘ均^ユ以^テ二^ニ葶^{テイ}管^{カン}子^シ盛^{セウ}藥^{ヤク}小^コ許^コ吹^フ二^ニ入^テ鼻^ビ中^{チュウ}一^ト

●皂^{ソウ}角^{カク}散^{サン}皂^{ソウ}角^{カク}半^ハ錢^{セン}水^{スイ}半^ハ鐘^{チュウ}煎^{ケン}待^{テイ}冷^{レイ}入^テ鼻^ビ令^ヘ搖^{ユウ}之^ニ

●煮^{シユ}肝^{カン}圓^{エン}胡^コ黃^{ワウ}連^{レン}去^キ癰^{ユウ}大^{ダイ}黃^{ワウ}蒲^フ黃^{ワウ}栝^ク去^キ二^ニ鹿^{ロク}皮^ヒ一^ト人^{ジン}參^{シン}去^キ芦^ロ苦^コ參^{シン}右^ウ七^{シチ}

味^ミ各^{カク}量^{リヤウ}二^ニ四^シ錢^{セン}除^ズ二^ニ蒲^フ黃^{ワウ}一^ト外^{ガイ}合^{ゲツ}為^ス二^ニ細^{サイ}末^{マツ}一^ト入^テ二^ニ蒲^フ黃^{ワウ}一^ト令^ヘ均^ユ納^{ナツ}二^ニ猪^チ肝^{カン}內^{ナイ}以^テ竹^{チク}葉^{エフ}一^ト包^{ハク}裏^リ用^{ユウ}

童^{トウ}便^{ベン}煮^{シユ}熟^{ジュク}去^キ肝^{カン}取^キ藥^{ヤク}爲^ス丸^ワ如^ク二^ニ赤^{アカ}小^コ豆^{ジュ}大^{ダイ}一^ト每^ヘ服^フ三^{サン}丸^ワ漸^{セン}加^カ至^シ二^ニ五^ゴ丸^ワ二^ニ

●當^{トウ}歸^キ散^{サン}當^{トウ}歸^キ一^ト錢^{セン}大^{ダイ}黃^{ワウ}二^ニ錢^{セン}右^ウ二^ニ味^ミ咬^{キョウ}咀^コ用^{ユウ}二^ニ童^{トウ}便^{ベン}一^ト煎^{ケン}去^キ滓^{サリ}待^{テイ}冷^{レイ}漚^サ下^カ

●黃^{ワウ}連^{レン}散^{サン}黃^{ワウ}連^{レン}大^{ダイ}黃^{ワウ}蒲^フ黃^{ワウ}栝^ク人^{ジン}參^{シン}右^ウ五^ゴ味^ミ各^{カク}量^{リヤウ}二^ニ錢^{セン}一^ト咬^{キョウ}咀^コ都^ト作^{サツ}二^ニ一^ト

服ニ用ニ并ニ花ニ水ニ小鐘ニ煎至ニ半鐘ニ去レ滓待レ冷灌下

●水銀散 水ニ銀半ニ錢輕ニ粉麝ニ香各一錢 右合研不レ見ニ水ニ銀一星ニ為レ度搽ニ有ニ四ウ

レ蟲處ニ

歲在ニ壬戌ニ冬有ニ鴉ニ鵲善ニ才者ニ一ニ日 鼻息塞

急目有ニ露ニ淚時人ニ皆以ニ爲ニ項ニ溺ニ欲灸ニ之ニ余

以ニ爲ニ鷹ニ鵲不レ可以ニ人病ニ治ニ之ニ試以ニ朱ニ砂ニ散ニ

吹レ之且用ニ煮肝ニ圓ニ果有ニ神效ニ至ニ今存焉厥

後余得ニ白ニ黃ニ鷹ニ甚愛ニ之是ニ時鷹ニ病方興ニ一

洞之内如ニ掃無ニ遺 一ニ日此鷹果有ニ退ニ食激ニ

熱之證ニ人皆曰當避方置之余於ニ是用ニ龍ニ

腦ニ丸ニ獨此ニ鷹存焉又今年秋之在ニ樹水ニ也

鷹事方盛 競ニ誇其能ニ將ニ還 鷹ニ病亦興生ニ者ニ五オ

十常ニ一ニ余ニ之所ニ養有ニ七病ニ勢已ニ兆時ニ無ニ

他妙ニ藥ニ止以ニ黃ニ連ニ散ニ理ニ之及ニ其還ニ也六ニ鷹

無ニ恙而唯一ニ鷹凍ニ死ニ耳余ニ之所ニ驗頗ニ多 姑

舉ニ數ニ條ニ明ニ其用ニ藥之妙ニ觀ニ此者足ニ以取ニ證ニ

焉^{コレハコレ}之養鷹^ノ之方^ノ矣^ニ ○時人教鷹

吐鷹調習法

吐^ト鷹^ト初^ハ 捉^テ 則^ム惡^ム 人^ヲ怯^ク 勞^ヲ内^ニ 熱^ハ煩^カ渴^ス 須^{スヘカ} 三^{チス、メ}即^ニ 勸^ム

水^{ミヅ}坐^マ 于^ニ 無^ム人^ヲ暗^ク 味^ミ涼^シ 所^ニ 飼^フ 食^ス 時^{トキ}人^ヲ潜^{カニ} 入^リ 不^レ

令^ラ鷹^{キヤウ}驚^{トウセ} 動^{ス、ムル} 一^ト 勸^ム 食^ス 則^{モト}鷹^{キヤウ}甘^{シヨク} 食^ス 矣^ニ

新^ニ鷹^{シハ}畏^ハ 人^ヲ 數^{シバ}飛^ハ 勿^レ 急^ニ 速^ニ 拳^{ズル}持^{コト} 一^ニ 須^タ 待^ナ 三^{ヘン}一^ニ三^ニ一^ニ日^ニ 二^ニ 五^ニウ

後^ノ夜^ニ則^{モト}拳^ズ 之^ヲ 然^ニ 不^レ 徹^{ナク}夜^ニ拳^ズ持^{コト} 日^ニ久^ク 漸^{シテ}々^ニ 晝^ニ

夜^ヤ不^レ離^{ハナ} 手^ヲ坐^マ 架^ニ則^{モト}必^ズ 二^ニ人^ヲ 衆^カ多^ニ 處^ニ 一^ニ

吐^ト鷹^ハ捉^ム 則^{モト}本^ニ肥^ニ 不^レ下^ル 而^{シテ} 調^シ習^ハ 不^レ 厭^ハ 人^ヲ 則^{モト}初^ニ

引^テ食^ヲ自^リ 近^キ 而^{シテ}呼^フ 日^ニ漸^{シテ}遠^ニ 引^ク 不^レ 然^ニ 而^{シテ}初^ニ 據^ス 二^ニ遠^ニ

引^ニ一^ニ則^{モト}雖^モ 来^ル 不^レ 直^ニ 而^{シテ}到^ル 二^ニ其^ニ 習^フ 一^ニ常^ニ 不^レ 可^ク 棄^ス 矣^ニ

凡^{ソノ}新^ニ鷹^ハ畏^ハ 人^ヲ 怯^カ勞^ヲ服^ス 食^ヲ後^ニ不^レ可^ク 二^ニ拳^ズ持^{コト} 一^ニ也^ニ 須^タ 二^ニ

下^{シメ} 食^ス後^ニ拳^ズ 之^ヲ

觀^テ鷹^ノ之^ノ柔^ニ順^ニ 從^フ 人^ヲ引^ク 食^ヲ服^ス 布^ヲ塊^ニ 耶^ニ塊^ニ 耶^ニ則^{モト}

内^ニ一^ニ陋^ニ有^テ 油^ヲ 疑^フ結^ス 布^ヲ 二^ニ羽^ニ 中^ニ作^ス 食^ヲ 一^ニ内^ニ 庁^ニ 裏^ニ 而^{シテ}飼^フ

之^ヲ則^{モト}翌^ニ晝^ニ還^ル吐^ク 之^ヲ則^{モト}去^ル 籠^ニ 内^ニ清^ニ 布^ヲ則^{モト}爲^ス「妙^ニ」 六^ニ才^ニ

越^テ二六七日^ヲ一^ニ三度及^ニ水食^ヲ肥得^ル中須^ク二三

日^ニ登^リ山拳持^ス一而引頸省聲見^ル飛雉則垂手

下^チ及^ジ放

新鷹放教法

拳^{スル}二新^ニ鷹^ヲ一者日將^ニ暮^{ント}矣見^テ二當^ニ入^ル近飛^ク一好^ニ手^ヲ放^ツ

レ之得^ハ捉^ム則勿^レ二急^ニ速直^ニ進^ム一此恐^ニ鷹^ノ之驚惶^ヲ棄^ス

去^シ也作^テ聲呼^フ之須^ニ下待^テ二甘^ニ食^{スルヲ}一而^ニ後^ニ遮^{シテ}面回^リ歩^ム

漸進到^テ二鷹^ノ處^ニ一先執^リ二結^ニ足^ヲ一皮貫^ク長^ク皮上此慮^ニ鷹^ノ

之颺^ア去^{コトヲ}一也雉腰折^リ殺^{シメ}除^テ二熱^ニ血^ヲ一第^{ホウ}肉及^ヒ内^ニ肉^ヲ一

并銀^{カゴ}半^ヲ食^フ餘許^{ニシメ}而^{シテ}後浮取^ル其浮^ノ取^ル之法^ハ人^ハ六ウ

之手執拵^{ノシムシヲ}納^メ鷹^ノ之兩^ノ脚^ノ間^ニ二二三指并執^{トル時ハ}兩^ノ

脚^ヲ一則自^ラ然^{ニシメ}而解^{トク}也或^ハ曰^ク鷹熱^ハ物雖^{トモ}調^{ワト}二鷹^ノ勞^ヲ

際^ノ不^レ可^カ服^カ温食^ヲ一况^ニ新^ニ鷹^ノ畏^{レサ}人^ノ内^ニ怯^ノ之^ヲ氣未^ダ

殄^{ツキ}其^ノ煩^ノ熱^ス其^レ可^ハ服^カ熱^ニ食^ヲ熱^ニ血^ヲ一乎必^ニ少^ク啗^ス

都邑支端^ノ肉^ヲ一而浮取^ル俄^{ニシメ}而氣歇^{ツク}其雉温^ノ肉^ヲ

更飼^ニ半^ヲ食^フ餘許^{ニシテ}一可^ク也^ニ

凡鷹不_レ可_二多放_一疲勞_ス新鷹尤_モ可_レ慎_ム也初放_一

之日與_二二_一三_一日_一不_レ過_一二_一手_一五_一六_一日_一二_一手_一至_二

一朔_一母_レ過_一二_一三_一手_一小_一放_レ為_一妙_一熱_一則不_レ拘_二手_一數_一

粗知_二鷹_一理_一者_一此際須_一每_一日捉_レ食_一為_レ妙_一若問_一七才

断放捉_一生_レ病_一矣又云暮手須_二捉_一而甘食_一則

其鷹暮_一必力_一捉_レ此言似_二乎巧_一然_一雖_二老鷹_一終

日放_一則勞_レ身_一內_一渴_一熱_一氣常_一多當_二此_一之時_一一恣

服_一二熱_一食熱_一血_一則因_二温合_一集_一必遲_一下生_レ病_一矣

慎_一之慎_一之

凡鷹放_一使_レ之日鷹_一性本_一柔_一而瘦_一則飼_二半_一食_一

可_一也本性惡_一而肌肥_一則飼_二二_一三_一點_一可_一也

凡性_一惡_一鷹登_レ山欲_レ放_レ之時專_一不_レ向_レ心_一人_一尿

和_レ食_一二_一三_一點_一可_一也又捉_二雉_一于空中_一墮_レ地_一內

傷_一亦用_レ為_レ妙_一鶴_一同_一七ウ

凡鷹春_一秋_一下_一肥_一無_レ害冬_一月極_一寒_一不_レ可_一二上_一肥_一

雖_レ然過_一肥_一則不可_一性_一惡_一鷹大_一肥_一則有_二二_一鷹_一去_一

之志^{ハカツチ}量^シ宣^ク飼^フレ^テ之^ヲ

凡鷹多放^{サハ}則知^チ主^ノ之不^ア飽^{マタ}飼^{カハ}一或^{ハハ}貪^{ホリトリ}捉^ハ或^ハ選^ツ

雌^メ一雉^チ一此^レ一則知^ル二雄^{ユウ}一雉^{チノ}之力^{ツヨキ}一強^ニ也故^ニ以^テ二雄^ニ一雉^ヲ一爲^ス

食^ト呼^フ一引飼^テ而教^ツレ^テ之^ヲ

上^チ木^ニ不^ラ下^ラ鷹^ハ一呼^ヒ引^キ來^ル則^ル須^ク下^{シメ}使^テ二甘^セ一食^シ一而^シ後^シ浮^シ

取^ル上^ニ不^シ然^シ而^{シテ}即^チ一時^ニ浮^ル取^ル則^ル其^ハ習^ハ不^レ可^ク棄^ス矣^ヲ

凡鷹不^レ使^ハ而^{シテ}坐^ス一養肥^{カヒ}一安^{スル}則^ル懷^{イダク}二凌^{レウ}一雲^{シノ}之志^ヲ一矣^ヲ

雖^{トモ}二二^ニ三^ニ一坐^ト一養鷹^ハ須^ク二朝^ハ一昏拳^クレ^テ之^ヲ使^サ二其^ハ柔順^{ニクワシスナラ}一八才^ニ

後放^ニレ^テ之^ヲ爲^シ妙^ハ○初^{シメ}放^ツ二于^ニ多^ク一樹處^ニ一

凡鷹小^ソ一食^ハ無^シ害^{ガイ}因^テ二多^ニ一食^ニ一而^シ生^ス病^ヲ但^シ瘦^シ一鷹小^ソ

食^{スル}則^ル加^ハ瘦^ハ矣^ハ且^ツ勿^{カフ}食^{コト}脚^ヲ一力^{（足）}一食^{（足）}二脚力^ニ一則^ル成^ス二霜^ス

角^{ツノ}及^ヒ吾^ハ一叱邪^{シヤ}一臥^{カク}一矣^ハ鷹多^ク一放^ハ内^ニ一熱^ス日^ニ一常^ニ食^フレ^テ半^ヲ

下^チ後^ニ夜^ニ一必^ス勸^ムレ^テ水^ヲ

二一月^ニ以^テ後^ニ十^ニ月^ニ以^テ一前^ニ陽^ニ一氣盛^ク一長^ク不^レ可^ク二當^テレ^テ午^ニ

放^チ使^フ二冬^ハ則^ル可^シレ^テ服^フ二温^ニ一食^{（春）}一秋^ハ則^ル不^レ可^クレ^テ服^フ二温^ニ一食^{（秋）}一

常^ニ使^ル二水^ニ一食^{（ニ）}爲^シ妙^{トモ}雖^{トモ}二雪^ニ一上^{（ト）}一無^ク風^ニ日^ニ一煖^{ナル}則^ル終^ニ日^{（ニ）}

放^チ使^{フセ}爲^{コシト}妙

不^ニ幸^{シメ} 兩^ニ鷹^ハ相^レ捉^{トツ}母^レ下^ニ以^テ他^ニ術^ツ救^{フコト}之^チ兩^ニ鷹^ノ之^{イダ}項^キ「八ウ

一^ニ時^{タトル時ハ}堅^{ニシメ}執^{ゲス}則^ニ自^{シメ}然^ズ而^レ解^ス

冬^{コホ}月^{ツキ}因^ハ兩^ニ雪^ニ或^ハ因^ハ執^レ二^ニ雉^ツ于^ニ雪^ニ水^ニ鷹^ノ羽^{ワレ}濕^{シテ}而^レ

凍^{コホ}即^チ坐^ス二^ニ照^{テラス}陽^ニ地^ニ且^ツ無^キ烟^リ細^ニ火^ヲ盛^テ器^ニ置^ニ於^ニ外^ニ

地^ニ以^テ鷹^ニ遠^キ拳^ヲ而^レ照^ス之^ニ又^テ以^テ手^ヲ照^{シメ}火^ヲ捫^{ツナフル時ハ}鷹^ニ則^ツ

其^ノ羽^シ可^シ速^{スミ}一^ニ乾^{カワク}也

肥^{シヤウ}鷹^ウ性^ニ惡^ク内^ニ陋^ニ每^ニ飼^ツ水^ニ食^ヲ連^シ服^{シメ}布^ヲ塊^{クワイ}耶^ヤ而^レ

朝^{ヤシ}昏^{スル時ハ}拳^ヲ持^ハ則^ニ肌^{ハダ}浮^ユ柔^{ジウ}性^ニ順^ニ矣^之

鷹^{ヌスム時ハ}儼^ハ食^ヲ則^ニ上^ニ肌^ニ内^ニ陋^ニ盡^ニ下^ニ其^ノ食^ヲ而^レ後^シ水^ニ食^ヲ

二^ニ三^ニ點^{テン}及^フ塊^ニ耶^ニ多^ニ少^ニ量^ヲ宜^テ服^レ之^ニ朝^ヲ昏^{コン}拳^ヲ持^ハ

適^{タツ}飢^{クハ}而^レ後^ツ放^フ之^ヲ「九オ

瘦^{ツウ}鷹^ノ上^ニ肌^キ法^ハ

瘦^チ鷹^ニ以^テ乳^ヲ汁^ニ和^フ食^ニ飼^ツ之^ヲ又^タ温^ニ食^ヲ數^ニ々^ニ飼^フ之^ヲ

半^ノ食^ヲ可^シ也^ニ下^ニ糧^{ミツト}雖^レ盈^ミ上^ニ糧^{ムナシキ時ハ}空^ハ則^ニ又^タ飼^フ之^ヲ矣^ニ

自^リ二^ニ捉^ツ雉^ニ與^ニ射^{シヤ}雉^ニ中^ニ二^ニ新^ニ雉^ニ則^ニ皆^ニ温^ニ食^ニ

凡鷹之内一陋皆以三羽一塊一耶治之又以二人尿一
和レ食飼之

作レ食法 朝則半一食夕則大一鷹大一雉脚

小一鷹小一雉脚是適中也半食

謂二雉半

脚量一也

作レ食人須二先洗レ手執作一當二細一長一而勿二麤大

若有二乾處ニ必去レ之又去下皮一腩間如二鼻一汁一不一丸ウ

淨之物上又去二皮與油而後又用二雉羽一磨二肉

上醜一物去二脚一力一以レ刀亂裂沉二冷水一淨洗飼

レ之食之多一少量二鷹之大一小一適一中飼レ之

坐レ鷹處法

常坐二下寒一溫適一中無二烟一氣淨廳上爲可冬一月極

寒則常坐二溫一處一不レ妨又冬一日坐二陽一處一然肥一

鷹則雖二冬月一不レ許二當レ陽坐レ之春一秋坐二陰一地一

鷹甚惡二烟一氣一糠一烟尤一毒養レ鷹之家々一内及

近^レ地^ニ勿^レ燒^{タツコト} 二^ニ糠^{ヌカ}火^ノ 此^レ鷹^ノ病^ノ之^之所^ニ由^テ生^ス一也

想⁽¹⁵⁾鷹^ノ安^ノ否^ヲ法^ヲ一〇オ

凡^ノ鷹^ノ坐^レ架^ニ強^ニ拂^フ羽^ヲ收^{シメ} 二^ニ一^ニ足^ツ 宿^{スル時ハ} 則^レ回^{シメ} 頭^ヲ而^ツ挿^{サシ} 二

左^ノ一^ニ右^ニ伸^ノ氣^ヲ屎^ヲ 則^レ一^ニ日^ニ 二^ニ三^ニ度^ニ所^ニ屎^ヲ大^ニ如^ク 掌^ヲ

黒^ノ一^ニ白^ニ相^{ハナレケン}離^ハ肩^ノ背^ヲ羽^ヲ不^レ動^シ食^ヲ俗^ノ上^ニ則^レ柔^{ナシ}一軟^{セハ}下^ニ

則^レ堅^ク一硬^{セウ}肛^ノ門^ノ窄^{セウ}小^{コウ} 而^レ冷^ヒ常^ニ食^ス速^ニ 下^ル此^ニ 是^ハ平^ニ

安^ノ之^ノ候^{コウ}也^ニ

聞^{ケイ}見^{ケン}經^ノ驗^ノ方^ヲ

鷹^ノ有^リ 二^ニ足^ヲ傷^ヒ 破^{リウ}浮^キ一腫^ハ 須^{スヘ} 安^ニ 二^ニ坐^{シヤク}暗^ノ一寂^ニ處^ニ 或^ハ以^テ醋^ス

和^{マセ}墨^ニ塗^ル 二^ニ傷^ニ處^ニ 又^ニ以^テ 二^ニ善^ク養^フ一令^{ムル時ハ} 不^レ 二^ニ驚^シ一動^セ 一則^{カソ}計^{ヘテ} 日^ニ

而^{イニ}差^ニ 鷹^ノ之^ノ頂^{トク}勒^ニ有^リ 二^ニ三^ニ四^ニ種^ニ 一或^ハ促^{ハソク}一息^{ソク}或^ハ

有^リ 二^ニ淚^{ナミダ}或^ハ如^ニ 人^ノ之^ノ疥^{カイサウ}瘡^ノ 一而^{ヤサレ}毀^レ或^ハ兩^ハ肩^ノ垂^{タレ}下^リ 或^ハ 一〇ウ

兩^ノ一足^ツ浮^キ腫^ハ 皆^ハ頂^{トク}勒^ニ證^ニ 也^ニ皆^ハ以^テ 二^ニ川^ノ中^ノ 小^ノ螺^ヲ 一去^リ

レ皮^ツ肉^ヲ一^ニ片^ニ裏^ニ飼^レ之^ニ 二^ニ一^ニ三^ニ度^ニ 即^ニ差^{チイユ} 一〇鼻^ノ一頂^{トク}一勒^ニ

鼻^ノ一上^ニ凹^ニ處^ニ針^ヲ一灸^{キウス} 且^{ツビ}鼻^ノ邊^ヘ毛^ヲ一呈^テ以^テ 二^ニ墨^ニ一絲^ツ一貫^ツ針^ヲ

貫^ス一刺^{サス}又^テ以^テ 二^ニ艾^ヲ灸^ス 一之^ノ兩^ツ一邊^ノ針^ヲ一孔^{コウ} 一

喘^{セン}促鼻^{ソク}有^ル聲^{シヤウ}者^ニ曰^フ鼻^ビ頂^ト勒^ニ目^ニ有^テ淚^{スガメ}而^ハ眇^{ナル}者^ニ

曰^フ目^メ頂^ト勒^ト兩^{リョウ}翼^{ヨク}垂^シ下^カ者^ニ曰^フ翼^{ヨク}頂^ト勒^ト身^シ有^ル如^ニ

疥瘡^{カイサウ}者^ニ曰^フ身^シ頂^ト勒^ト足^{ハル}腫^{ハル}者^ニ曰^フ足^{ハル}頂^ト勒^ト有^ル此^ニ

證^シ者^ニ坐^ノ于^ニ無^キ烟^{エン}暗^{アン}寂^{シヤク}處^ニ不^レ使^セ驚^セ動^ツ且^ツ以^テ好^ニ

食^シ善^シ養^{ヤウ}亦^モ以^テ二^ニ川^{カハ}中^{チュウ}小^{ショウ}螺^ラ去^リ皮^ハ裹^ミ肉^{ニク}飼^ハ之^ヲ則^ニ

無^シ不^レ愈^ト者^ニ足^ハ頂^ト勒^ハ川^{カハ}中^{チュウ}冷^{レイ}沙^{シャ}盛^{セイ}於^ニ瓢^{ヒョウ}子^シ安^ニ二^ニ一^一才^才

於^ニ缸^{コウ}上^ニ以^テ二^ニ病^{ビョウ}鷹^{ヤウ}坐^ス於^ニ冷^{レイ}沙^{シャ}上^ニ過^ス二^ニ回^ヘ五^ゴ夜^ヤ若^シ

不^レ差^ハ以^テ愈^ス為^ス度^ト連^ス夜^ヤ坐^ス之^ヲ甚^カ良^シ ○鷹^{ヤウ}病^{ビョウ}

皆^{オウ}畏^レ人^ニ怯^シ勞^{ラウ}煩^フ熱^{ネツ}內^ニ渴^{カツ}而^テ出^ツ山^{サン}間^ノ溪^{セキ}水^ニ有^ル

虫^{チュウ}名^ナ曰^フ二^ニ下^カ子^シ一^一也^モ只^シ四^シ五^ゴ箇^コ肉^{ニク}片^ハ裹^ミ飼^ハ之^ヲ神^{カミ}

效^{コウ}再^シ服^{フク}亦^モ可^カ又^モ黃^{ワウ}櫟^{リツ}木^ノ實^ミ細^シ末^{マツ}肉^{ニク}片^ハ裹^ミ飼^ハ

之^ヲ ○鷹^{ヤウ}或^ハ多^タ放^チ或^ハ遠^{エン}路^ロ拳^{ケン}來^キ身^シ勞^{ラウ}屎^シ中^ニ

黑^{コク}點^{テン}不^レ塊^{クワイ}以^テ馬^バ糞^{フン}水^{スイ}和^{ハフ}食^シ飼^ハ之^ヲ

霜^{ソウ}角^{カク}鷹^{ヤウ}不^レ二^ニ大^{ダイ}一^一發^{セツ}之^ヲ時^シ喘^{セン}息^{シツ}自^ラ若^ニ又^モ貪^{コン}捉^{ツク}雉^チ

粗^コ知^チ鷹^{ヤウ}理^リ者^ニ不^レ知^チ二^ニ此^シ一^一病^{ビョウ}之^ヲ生^{スル}如^シ常^{ジョウ}而^テ放^ツ甚^カ

不^レ可^カ也^モ此^ノ病^{ビョウ}者^ニ內^ニ冷^{レイ}外^ノ熱^{ネツ}而^テ出^ツ可^レ知^チ二^ニ此^シ一^一病^{ビョウ}一^一ウ

之出^{ルコト} 一也當^{ツノ} 初始^{カミ} 發^{テヲコルノ} 一之時放^{ハウ} 一尿不^シ 一長^{シメ} 而斷^{ダシ} 一絶^{ゼツシ}

不能^ハ 二放^ハ 一尿^{ノスムコト} 一當^ニ 如^ニ 此則須^ク 下捉^{トラヘ} 二生^ル 一雉^チ 一以^テ 二病鷹^グ 一多^ク

噬^{クハシム} 二熱^ニ 一血熱^ニ 一肉^ヲ 飼^{コト} 半^ニ 食^ス 上如^レ 此三^ニ 四^ニ 度使^{シメ} 鷹內^ニ

熱^ニ 則可^シ 二能治^ク 一之須飼^ク 二熱^ニ 一血^ヲ 可^ク 也若不^レ 捉^{トラフ} 二生^ル

雉^ニ 須^ク 二雀風^ニ 中生^ニ 一捉^テ 噬^{ハシム} 二之熱^ニ 一血熱^ニ 一肉甚^タ 可^ク

○上^ニ 木不^レ 下鷹呼^{ニル} 引^{ニル} 来甘^{ニル} 一食^{スル} 時肉^{ニル} 一片二^{ニル} 三^{ニル}

點和^{ニル} 二入^ニ 一尿^ニ 飼^ニ 之其習^ニ 永^ニ 棄^ニ 矣^ニ

凡鷹無^ニ 病而日^ニ 漸消^ニ 一瘦^ニ 者必是針每也只^ニ

虫所^ニ 侵^ニ 也採^{トリ} 二取^ニ 苦^ニ 參^ニ 根^ニ 一取^ニ 二水^ニ 一盆^ニ 煎^ニ 至^ニ 二半^ニ

盆^ニ 一待^ニ 冷^ニ 鷹子^ニ 縛^ニ 置右^ニ 水塗擦^ニ 以^ニ 二全^ニ 一體盡^ニ 一濕^ニ 一^ニ 二一^ニ 二才^ニ

爲^ニ 限坐^ニ 架待^ニ 乾^ニ 須^ニ 下於^ニ 二坐^ニ 一架下^ニ 一鋪油^ニ 一席^ニ 一驗^ニ 中^ニ 看^ニ

右^ニ 一虫死^ニ 一否^ニ 上^ニ ○鷹翅虫^ニ 損^ニ 苦^ニ 參^ニ 根煎^ニ 一水翅^ニ 一^ニ

根當^ニ 二損^ニ 一處^ニ 一塗^ニ 一擦使^ニ 之漬^ニ 一濕^ニ 一則計^ニ 日^ニ 而差生^ニ

レ羽如^シ 常^ニ

凡鷹或累^ハ 一或六^ハ 一七^ハ 一 日專^{モツハラ} 不^レ 食^ハ 若^ハ 勸^ハ 一食^ハ 則^ハ

退^ニ 走^ニ 不^レ 顧^ニ 者^ハ 是必身^ハ 一勞煩^ハ 一渴^ハ 所^ハ 致^ハ 生^ハ 一病也^ハ

鷹若見^シ水欲^ス飲^{ント}先勸^ム葉^{ソウ}枝茶^{シヤ}水^ヲ一^{ツイ}繼^{テス}勸^ム二^ム月^{ケイ}一^{ケイ}經^一

水^ヲ鷹若^シ嗜^シ食^ヲ則^レ不^レ拘^ハ時^ニ雖^レ嗜^シ二^ニ飲^{イム}水^{コト}一^{イム}忌^{コト}食^ニ如^{ナラハ}

前^ノ須^ク捉^ヘ二^{ヘテ}生^{ケル}雀^ヲ飼^フ之^ヲ雖^レ不^レ貪^ラ食^ヲ一^{ツイ}二^{ハミ}點^フ啄^ハ一^フ食^ハ

則^レ生^{ケル}雀^ヲ連^ニ續^ニ生^{ニイ}一^{ニイ}捉^ト係^ヘ坐^ニ一^ニ架^ノ上^ニ鷹^ヲ有^ハ二^ニ食^ノ心^ニ一^ニ則^チ一^ニ二^ウウ

自然^{ニシメ}而^ツ食^フ其^ノ病^チ即^ユ差^ハ

凡^ソ鷹^ニ滿^リ二^ニ身^ニ疥^ニ瘡^ニ一^ハ者^ハ身^ニ一^ニ頂^ニ勒^セ也^ホ哺^ニ乳^ニ小^ニ兒^ニ黃^ニ

糞^{フン}和^ニ水^ヲ攪^ニレ^ニ之^ニ細^ニ布^{ニシメ}一^ニ篩^ニ之^テ以^テ二^ニ竹^ニ一^ヲ筒^ニ一^ニ納^ニ于^ニ鷹^ノ口^ニ

中^ニ一^ニ以^テ二^ニ食^ニ俗^ニ充^ニ滿^ニ一^ヲ為^ト限^ト淮^ニ下^ニ一^ニ二^ニ度^ニ即^チ差^ハ

凡^ソ鷹^ニ多^ク放^{トキハ}雖^{トモ}無^シ二^ニ病^ニ一^シ證^シ放^シ鷹^ノ者^ノ意^ニ謂^フ多^ク一^ニ放^テ以^テ

病^レ為^レ嫌^ニ則^レ肉^ヲ一^ニ斤^ニ二^ニ三^ニ點^ニ和^ニ二^ニ月^ニ一^ニ經^ニ一^ニ水^ヲ一^ニ飼^ニレ^ハ之^ヲ則^レ

病^レ不^レ生^シ雖^{トモ}不^ト二^ニ多^ク一^ニ放^シ鷹^ハ是^レ熱^ニ一^ニ物^ヲ用^ニレ^ハ心^ニ內^ニ一^ニ渴^ニ須^ク二^ニ

初^ニ一^ニ夜^ニ一^ニ二^ニ更^ニ中^ニ勸^ニ水^ヲ以^テ二^ニ鷹^ニ不^レ飲^ニ為^レ限^ト而^チ止^{ヤム}

凡^ソ鷹^ニ一^ニ鵲^ニ屎^ヲ有^ハ二^ニ長^ニ一^ニ虫^ニ一^ニ櫃^ニ一^ニ子^ニ細^ニ一^ニ末^ニ肉^ヲ裹^ニ飼^ニレ^ハ之^ヲ然^モ

差^レ有^ハ二^ニ毒^ニ狼^ニ一^ニ牙^ニ一^ニ草^ニ煎^ニレ^ハ水^ヲ和^ニレ^ハ食^ニ飼^ニレ^ハ之^ヲ肉^ヲ一^ニ片^ニ二^ニ三^ニ一^ニ三^ニオ

點^ニ裏^ニ清^ニ蜜^ニ飼^ニレ^ハ之^ヲ則^レ長^ニ一^ニ虫^ニ盡^ニ死^ニ此^ニ一^ニ藥^ニ尤^ニ妙^ニ

凡^ソ鷹^ニ遠^ニ一^ニ路^ニ拳^ニ來^ニ身^ニ一^ニ勞^ニ煩^ニ一^ニ熱^ニ似^ニ無^ニ二^ニ病^ニ證^ニ一^ニ粗^ニ知^ニ二^ニ

鷹^ノ理^リ者^ヲ以^モ爲^ス無^シ病^ハ放^ニ使^ハ則^ハ病^ハ死^ス丁^ニ寧^ニ慎^ニ勿^ニ
 放^ニ使^ハ須^ニ坐^ス養^フ休^ム氣^ヲ十^ニ餘^ニ日^ハ後^ニ更^ニ調^ス放^ニ使^ハ爲^ス
 妙^シ

八^ノ九^ノ十^ノ月^ハ間^ニ鷓^ノ子^ノ體^ハ大^ニ如^シ鷹^ノ者^ハ勿^レ論^ス甫^ハ羅^ハ

山^ニ陳^ニ羅^ニ取^ル勿^レ急^ニ速^ニ拳^ニ持^テ一^ニ須^ニ於^ニ寒^ニ煖^ニ適^ニ中^ニ處^ニ

坐^ス養^フ往^ニ々^ニ拳^ニ持^テ上^ニ方^ニ夏^ニ節^ニ一^ニ毛^ニ羽^ニ落^ル時^ハ遲^ニ緩^ニ不^ニ

落^ル須^ニ離^ニ捉^テ下^ニ一^ニ二^ニ日^ハ飼^フ之^ハ則^ハ毛^ニ羽^ニ一^ニ時^ハ

盡^ス落^ル鷹^ノ羽^ハ不^レ落^ル亦^ハ食^フ爲^シ妙^シ且^ニ鷓^ノ與^ニ鷓^ノ皆^ハ熱^ニ物^ニ而^ハ一^ニ三^ニウ

時^ハ又^ハ極^ニ熱^ニ鷓^ノ子^ノ浴^ス水^ハ一^ニ日^ハ内^ニ須^ニ二^ニ四^ニ五^ニ度^ニ一^ニ冷^ニ

水^ハ改^メ給^フ羽^ハ衣^ハ雖^ハ未^レ稱^ス節^ハ趣^ニ孟^ニ秋^ニ須^ニ拳^ニ之^ハ漸^ニ

々^ニ盡^ス夜^ハ不^レ離^ス手^ハ調^ス習^ス不^レ厭^ス人^ハ則^ハ初^ニ引^ニ食^フ自^ハ

近^ニ而^ハ呼^フ日^ハ漸^ニ遠^ニ引^ニ々^ニ食^フ則^ハ以^テ二^ニ初^ニ肢^ニ兒^ニ鷓^ノ雌^ハ

雄^ハ一^ニ相^ニ間^ニ爲^シ食^フ飛^ニ引^ニ飼^テ而^ハ教^ユ之^ハ熱^ニ調^ス後^ニ朝^ニ暮^ニ

乘^ニ二^ニ涼^ニ氣^ニ一^ニ拳^ニ持^テ歸^ス早^ニ粟^ニ田^ニ頭^ニ尋^ニ兒^ニ雉^ニ放^レ之^ハ

得^ハ捉^テ則^ハ勿^レ急^ニ速^ニ直^ニ進^ス作^ス聲^ヲ呼^フ之^ハ須^ニ待^テ二^ニ甘^ニ食^フ

而^ハ進^ム飼^ニ半^ニ食^フ餘^ハ許^ス一^ニ後^ニ浮^ニ取^テ兒^ハ雉^ハ慣^ス熱^ス々^ニ捉^ル

則雖^ニ冬^ノ節^ノ春^ノ時^ト一雌^ノ一雉^ノ皆可^シ捉^ル也^ヲ鶴^{ヨウ}子^ウ放^フ一使^ス
 之時^ノ須^ク使^シ二下^ニ一糧^ヲ■亘^{ワタリ}盈^ミ不^レ爾^シ則^チ生^ス病^ヲ且^ツ熟^シ一調^ヲ一四^ノ才^ヲ
 放^フ一使^ス則^チ只^シ於^ニ朝^ノ夕^ニ一拳^ヲ持^シ放^チ使^フ不^レ妨^ス然^{トモ}性^ノ一惡^ヲ
 則^チ不^レ拘^ルニ此^ノ法^ニ一鶴^ノ子^ヲ初^メ捉^ム則^チ畏^レ人^ヲ怯^ム勞^ヲ内^ニ熱^ス
 煩^ノ渴^ノ之心^ヲ未^ダ殄^シ加^ヘ之^ヲ以^テ二寒^ノ一凍^フ一肌^ヲ拳^ヲ持^シ急^ニ
 速^ニ調^ス放^フ則^チ必^ズ一死^ス丁^ニ寧^ホ粗^ク知^ル二鷹^ノ一理^ヲ一者^ノ不^レ知^ル二調^ノ
 養^ノ之法^ヲ一反^チ謂^フ易^シ斃^ス惑^ス之^ヲ甚^キ矣^ニ當^ニ如^ク二上^ノ法^ノ一調^ス
 養^シ教^フ一放^ス則^チ多^ク壽^ハ不^レ病^ス矣^ニ凡^ソ用^フ棄^ス放^ス一教^フ諸^ノ一法^ヲ
 與^ト鷹^ト同^シ籠^シ奪^ト與^ト鶴^ト同^シ

鷹賦

惟^レ茲^ノ禽^ノ之^ノ化^ニ一育^ニ実^ニ鍾^ノ山^ノ之^ノ所^ニ生^{スル}資^ニ金^ノ一方^ノ之^ノ
 猛^ノ一氣^ヲ一檀^ス二火^ノ一德^ノ之^ノ炎^ヲ一精^ヲ一何^ノ虞^ノ一者^ノ之^ノ多^ク一端^{ナル}運^{シメ}二横^ニ一四^ノウ
 羅^ヲ一以^テ羈^ス一束^ス綴^リ二經^ヲ一絲^ヲ於^ニ雙^ニ一臉^ニ一結^ツ二長^ヲ一繩^ヲ於^ニ兩^ニ一足^ニ
 飛^{トモ}不^レ遂^ニ於^ニ本^ニ一情^ヲ一食^{トモ}不^レ充^ニ於^ニ所^ニ欲^{スル}逸^ス一翰^ヲ由^テ而^テ
 暫^ク斂^{シメ}雄^ノ一心^ヲ為^メレ之^ノ自^カ局^ヲ若^シ乃^チ貌^ヲ非^レ不^レ一相^ハ一乃^チ
 多^ク一途^ノ拊^ハ重^シ二一十^ノ一宇^ヲ一尾^ヲ貴^ク二合^ニ一慮^ヲ一立^{コトハ}如^ク二植^ノ一木^ノ一望^{コトハ}似^リ二

愁^ニ胡^ハ菊^ク同^ニ鈎^ノ利^ノ脚^ハ等^ニ荊^ノ枯^{タルニ}一亦有^ニ下^ニ白^{シメ}如^ニ散^ク一花^一

赤^ニ如^{ナル}中^ノ點^ニ一血^ノ大^ハ一文^ハ若^ク錦^ノ細^ニ一斑^ハ似^ル纈^ノ眼^ハ類^ニ二明^ハ一珠^ニ

毛^ハ猶^ホ二霜^ニ一雪^ノ身^ノ重^{シメ}若^ク金^ノ爪^ノ一剛^{シメ}如^{シメ}鐵^ノ或^ハ復^ル頂^ハ一平^{ニシメ}

似^ル削^{ルニ}頭^ハ一圓^ニ如^{シメ}卵^ノ臆^ノ潤^ク頸^ハ一長^ク筋^ハ一龜^ハ脛^ハ一短^ク翅^ハ一厚^ク

羽^ハ一勁^ク啤^ハ一寬^ク肉^ハ一緩^{シメ}此^ノ之^ノ才^ハ一用^ニ俱^ニ爲^リ二絶^ハ一伴^ハ一或^ハ如^ニ

鶉^ハ一頭^ハ或^ハ似^ル二鴟^ハ一首^ニ一赤^ハ一晴^ハ黃^ハ一足^ハ細^ニ一骨^ハ小^ニ一肘^ハ懶^ニ而^ハ一五^ハ才^ハ

易^ハ驚^ニ奸^{ニシメ}而^ハ難^{シメ}誘^{ミチヒキ}住^テ不^ラ可^ク呼^テ飛^テ不^レ及^{ルニ}走^{ルニ}若^ク斯^ノ

之^ノ輩^ハ不^レ如^{シメ}勿^ニ有^{コト}若^ク一夫^ハ疾^ハ一食^ハ速^ニ一消^シ此^ノ則^ニ有^ツレ命^ヲ

駕^ノ一頸^ハ猴^ニ立^ニ是^ニ爲^カ無^レ病^ハ廁^ハ一門^ハ忌^ハ大^{ナルヲ}結^ハ一肛^ハ惡^ハ軟^{ナルヲ}

條^ハ不^レ欲^ル絶^{ルコトヲ}背^ハ不^レ宣^ラ喘^ニ生^{スルニ}於^ニ窟^ハ一者^ハ則^ニ好^ク眠^{スル}生^ニ

於^ニ木^ハ一者^ハ則^ニ常^ニ立^ツ雙^ハ一較^{カウ}長^{キハ}者^ハ則^ニ起^{ツコト}遲^シ六^ハ翻^{カク}短^ニ

者^ハ則^ニ飛^ハ一急^ニ毛^ハ一衣^{シハ}屢^ハ一改^ム厥^ノ色^ハ無^レ常^ニ寅^{シメ}生^{スル}酉^ハ就^ル

捻^テ號^{シメ}爲^シ黃^ト二一^ハ周^ザ作^サ鵠^ト千^ハ一^ハ日^ハ成^ス蒼^ト雖^レ曰^ト二排^ハ廬^ハ一

性^ニ殊^ニ衆^ハ一鳥^ハ一雌^ハ則^ニ體^ハ大^ニ雄^ハ則^ニ體^ハ小^ニ遇^テ犬^ハ則^ニ驚^キ

猜^{カイ}見^ル人^ヲ則^ニ馴^{ナル}擾^ハ養^{時ハ}離^ハ則^ニ小^キ病^{アリ}野^ニ羅^{スル時ハ}則^ニ多^シ巧^ニ

察^シ之^ノ爲^シ易^ト調^トレ之^ノ實^ハ難^シ格^ハ必^ニ高^ハ一迥^ア室^ニ必^ニ華^ハ一寬^ニ一五^ハウ

葦^ハ以^テ取^リ熱^ヲ酒^ハ以^テ排^ハ寒^ヲ 須^ク温^ニ暖^{ニス} 肉^ハ不^レ陳^ニ 乾^ニ
 近^レ之^ヲ令^テ狎^シ靜^シ之^ヲ使^テ安^ク 晝^ハ不^レ離^レ手^ヲ 夜^ハ便^ニ火^ヲ 宿^ス
 微^シ加^シ其^ノ毛^ヲ 一^ヲ小^シ減^ス其^ノ肉^ヲ 一^ヲ肌^ヲ 肥^ニ腸^ヲ 一^ヲ瘦^ニ心^ヲ 一^ヲ和^ニ性^ヲ 一^ヲ靈^{ニシメ}
 念^ヒ絶^シ二^ニ雲^ヲ 一^ヲ霄^ヲ 一^ヲ志^ヲ 在^リ二^ニ馳^ヲ 一^ヲ逐^ニ

 之^ハ求^メ便^ニ 眞^ニ也
 一^ハ散^ニ 一^ハ者^ハ今^ノ之^ハ雨^ニ 一^ハ者^ハ輕^ニ也 一^ハ格^ニ也 一^ハ聖^ニ也 一^ハ黃^ニ

右古本鷹鶴方雖多不審依无類本

不能校合只任本書訖

通堯 一六才

彰考館御本奥書

右一者以二山一 本藤一 右一 衛一 門所持本 令二書寫

校一合二畢 義應三 年六月六日

古本鷹鶴方以二水戸彰考館御本書寫

之 一天保四年五月廿六日

史館待命 平小山田 與清 一六ウ

右此一帖者以_ニ平與清小山田將曹自筆

本_一於東武邸_{テイ}舍手自_{ミツ}下翰_{カシラ}書_ニ寫之_一畢

天_一保四年歲次癸巳_{ヤシニ}仲秋下澣日

正木治部越智宿禰通亮

(花押)「一七オ

右古本鷹鶴方者以正木通亮手書本騰

寫畢天保四癸巳之秋九月廿八日起筆

十月五日終卷馴鷹繫務之間連夜務下

採毫成功畢通亮者近江彦根之家士也

善國學側耽探鷹書頃日奉主命來江戸

館而勤仕余有邂逅者而交情密也固得

借此書寫焉

雜司谷鷹人 片山勇八賢(花押)「一七ウ

(1) 注

正統ハ明、英宗ノ

年号之十四年ツ、

ク日本永享九年

ヨリ嘉吉文安宝徳

ノ間ニアタル凡四百年

ハカリニナル

(2)

○草州湯_ニ州_ニ二字皆謬也

當_レ作_レ州_ニ草州則未_レ詳_ニ何

物_ニ自_レ前以_ニ黄栢實_ニ搏

碎作_ニ湯称_ニ草州湯_ニ治_ニ

鷹虱_ニ黄_ニ栢即今郷_ニ

菜用_レ皮黄_ニ栢_ニ木也

(3)

○梨萋根即枯萋根

到處有_レ之我國郷菜

也栢部根_ニ栢_ニ當_レ作_レ百

乃唐材也

(4)

○狼牙草。俗_ニ名_ニ草鞋

菜_ニ到處有_レ之

(5)

一本簪作_レ反

(6)

一本身作鼻

(7)

一本百作等

(8)

胡黄之間_ニ麻_ニ字

脱_{スル}欺

- (9) 疑^レ、誤^レカ亦
下^レ内當作肉
- (10) 省^ハ肖^レ誤^レ乎
- (11) 一本際作熱
- (12) 食^二間^一若^レ飼文字
脱スル歟
- (13) 一本力^レ字^二字^一トモ
作筋
- (14) 一本項作頂
- (15) 想^ハ相^レ誤^レ歟
- (16) 屎^ハ屎^レ誤^レ歟
- (17) 一本頂作項
- (18) 皆頂ノ間ニ足ノ字
ヲ脱スルナルヘシ
- (19) 一本下^ヅ作^ハ可^レ誤^レ也
- (20) 一本丁作下
- (21) 而時之間ニ若シ
- (22) 夏ノ字ナト脱セ
シニハアラヌカ
一本未作末
- (23) 初引ノ間ニ呼^レ字
脱スルカ可考
- (24) 一本丁作下誤^カ

〔付記〕

本稿は、科学研究費補助金(基盤研究C、課題番号24500247、研究課題名「放鷹文化と鷹書類の研究」、研究代表者 中本大)、生き物文化誌学会助成制度「さくら基金」による研究成果の一部である。

〈キーワード〉鷹狩り、韓国の鷹書、鷹鵠方

The Whole Sentence of the Text of Falconry Called “Yo-kotsu-ho” which National Library of Korea Owns

Yasuko NIHONMATSU

The whole sentence introduces a text of the falconry called “Yo-kotsu-ho” which National Library of Korea owns. This text was established in Korea in the 15th century. An author is 안평대군(安平大君)이용(李瑬). The point that is particularly important about this text is a sentence to see so that a written statement of expert opinion comes. I understand what kind of people read this text by this sentence in Japan. Furthermore, I can guess how falconry culture in Japan unfolded from the information. Therefore I think that the important clue that Japan and interchange of the Korean falconry culture become clear is provided when I introduce the whole sentence of this text.